



06/09/2019

Ephesians 5 (husbands and wives)

Please turn in your Bibles to Ephesians 5 as we continue our journey through the Word of God together.

エペソ人への手紙5章を開けてください。神の御言葉の旅を共に続けましょう。

By way of reminder, chapters 1-3 (the first half of this epistle) speak of all God has done, is doing and will do for you and for me and for all who believe.

いままでのところを思い出して置きましょう。このエペソ人への手紙の前半である1-3章は 神があなたのため、私のため、信じる者すべてのために これまでになさったこと、今している事、これからされる事 について書かれていました。

In light of all the love and spiritual blessings we have received we are then encouraged in chapter 4:1 to "walk worthy of the calling with which we were called."

私たちが受けた 愛と霊的恵み という視点から見ると、4:1 「その召しにふさわしく歩みなさい」という御言葉は 私たちの背中を押してくれます。

"Walk" speaks of action (what we do, the way we live our life).

「歩む」とは行動 つまり 私たちが何をするか、人生をどう生きるか を意味します。

"Worthy" speaks of devotion (why we do it).

「ふさわしく」とは 信仰、つまり なぜそれをするのか、という事を意味します。

We see this emphasized throughout the second half of this epistle by...

エペソ人への手紙の後半は 「ふさわしく歩む」事 が強調して書かれています。

1. Walking in **Unity** (4:2-16),  
一つとなり 歩む
2. Walking in **Purity** (4:17-5:18),  
清く歩む
3. Walking in **Harmony** (5:19~ 6:9),  
調和して 歩む

and 4. Walking (or standing strong) in **Victory** (6:10-18).

そして4つ目は 勝利の内に 歩む。すなわち 勝利のうちに 断固とした態度をとる。

Today we are continuing this section of walking in harmony.

今日は 3つ目の 調和して歩むこと について さらに学んでいきます。

We learned "**what**" we are to do (walk worthy), we know "**why**" we are to do it (because of what God has done for us), and in our last study we learned "**How**" we are to do it (by being "filled with the Spirit," 5:18b).

私たちはすでに 何をすべきか (つまり ふさわしく歩む) を学び、なぜそうすべきなのか (つまり、神が私たちにしてくださった事のゆえに そうする) を理解し、先週 どのようにすべきなのか (つまり 聖霊に満たされてする) を学びました。

What does it mean to be filled with the Spirit?

では 聖霊に満たされるとは どのような状態を意味するのでしょうか？

We can imagine water being filled in a cup. It's getting up to the brim, almost there, OK, it's filled!

コップに水を注ぐところを 想像してください。だんだん一杯になってきて... ふちまで一杯になりました！この状態です。

But instead of water filling a cup, I like to think of it like a hand filling a glove.

でも私は 水がコップを満たす というよりも、手袋に手が差し込まれた状態を想像する方が 好きなのです。

A glove by itself can't do much but hang out. Even a glove partially filled isn't to effective.

手袋それだけでは フニャフニャで何もできません。中途半端に手を入れても あまり役にたちません。

But once a hand has completely filled that glove, now it can get to work. Now it can accomplish something, otherwise it is powerless.

手がしっかり差し込まれると その手袋は役に立ちます。何かをやりとげます。でも そうでないと 何の仕事もできません。

The hand would say to a glove, "get to work" because the glove can only do something when the hand is in the glove.

手は手袋に 「働きなさい」と言うでしょう。なぜなら 手袋は 手が中にしっかり入っている時だけ 何かをすることができるからです。

Paul gave us four very simple examples of how being filled with the Spirit is manifested in our lives...

パウロは 聖霊に満たされた時 それは 私たちの生活にどのように現れるか、とてもシンプルに4つの例を挙げています。

By way of review ...

まずはまとめとして 次の箇所を読んでおきましょう。

Ephesians 5:19-21 **speaking** to one another in psalms and hymns and spiritual songs, **singing** and making melody in your heart to the Lord, 20\* **giving thanks** always for all things to God the Father in the name of our Lord Jesus Christ, 21\* ¶ **submitting** to one another in the fear of God.

5:19詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。

5:20いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって 父なる神に感謝しなさい。 5:21キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。

So 1. speaking, 2. singing, 3. thanking 4. submitting

つまり、1、語る 2、賛美する 3、感謝する 4、従う

Four practical evidences of being filled (controlled) by the Sprit of God.

神の霊に満たされている時の 4つの実際的な証拠です。

Verse 21 is a transitional verse, a principle is stated (submission) and the we will see six examples of how that principle applies to our lives practically.

21節は いろいろなことに関係があります。つまり 従う という原則が述べられており、つづいてこの原則が 私たちの生活に 実際に どのように用いられるか という6つの例が 書かれています。

The first is the submissive role of the wife.

第一に 妻としての「従う役割」

The Second, is the submissive role of the husband.

第二に 夫としての「従う役割」

Next week in Chapter 6 we will see the submissive role of children, parents, servants and masters.

そして来週 6章の中で 子供として、親として、しもべとして、主人として の「従う役割」を見ていくことになります。

The point is, **submission is mutual.**

ここで 大切なポイントは お互いに従いあう、という事です。

This (*submission is mutual*) is the first of several points we will see in our text today and next week.

今日と来週の聖書箇所には たくさんのことが書かれていますが その第一が お互いに従いあう事です。

Submission isn't just for one, it is to be done by everyone. Men, women, children, parents, no one is excluded.

一人が従うのではありません。従うとは 全ての人ができるべきです。男性、女性、子供、親、例外は一人としてありません。

But as Christians, who is it that we are ultimately submitting ourselves too? では クリスマンが 最終的に従っているのは 誰ですか？

Ephesians 5:21 † submitting to one another in **the fear of God.**

5:21キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。

The Lord is to be our primary motivating factor in all we do.

私たちの行動すべてを起こさせる 根本の要因は 主なる神 であるべきです。

With that said, lets read our text for today and we will come back and expound...

そういう訳で 今日の聖書箇所を 通して読んでおきましょう。あとでもう一度戻り 詳しく見ていきます。

Ephesians 5:22-33 Wives, submit to your own husbands, as to the Lord. 23 For the husband is head of the wife, as also Christ is head of the church; and He is the Savior of the body. 24 Therefore, just as the church is subject to Christ, so let the wives be to their own husbands in everything. 25 Husbands, love your wives, just as Christ also loved the church and gave Himself for her, 26 that He might sanctify and cleanse her with the washing of water by the word, 27 that He might present her to Himself a glorious church, not having spot or wrinkle or any such thing, but that she should be holy and without blemish. 28 So husbands ought to love their own wives as their own bodies; he who loves his wife loves himself. 29 For no one ever hated his own flesh, but nourishes and cherishes it, just as the Lord does the church. 30 For we are members of His body, of His flesh and of His bones. 31 "For this reason a man shall leave his father and mother and be joined to his wife, and the two shall become one flesh." 32 This is a great mystery, but I speak concerning Christ and the church. 33 Nevertheless let each one of you in particular so love his own wife as himself, and let the wife see that she respects her husband.

5:22妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に 従いなさい。 5:23なぜなら、キリストは 教会のかしらであって、ご自身が そのからだの救い主であられるように、夫は 妻のかしらであるからです。 5:24教会が キリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。 5:25夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のために ご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。 5:26キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて 聖なるものとするためであり、 5:27ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、きよく傷のないものとなった 栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。 5:28 そのように、夫も 自分の妻を 自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は 自分を愛しているのです。 5:29だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育

てます。それは キリストが教会をそうされたのと同じです。 5:30私たちは キリストのからだの部分だからです。 5:31「それゆえ、人は その父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」 5:32この奥義は 偉大です。私は、キリストと教会とをさして 言っているのです。 5:33それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を 自分と同様に 愛しなさい。妻もまた 自分の夫を敬いなさい。

Again our focus this week is walking worthy in harmony (with our spouses) by way of submission.  
もう一度確認しておきますよ。今週のメッセージの焦点は 従う という方法によって 夫婦が調和して歩む という事です。

The Greek word for submission in our text today is **“hupotasso (hoop-ot-as’-so)”** and it has military origins, emphasizing being under the authority of another PERSON.

今日の箇所の 「従う」 という言葉のギリシャ語は **“hupotasso (hoop-ot-as’-so)”** といって、軍隊の言葉から出ており、他の人の権威の元にいることを 強調する言葉です。

The word does not imply a forced submission; instead it is a voluntary submission to a proper authority.

この言葉が意味するのは 強いられた服従ではなく ふさわしい権威者に 自発的に従うことです。

Thus Paul seems to be saying that wives should voluntarily place themselves under the authority of their husbands.

パウロは 妻は自発的に 夫という権威者の元に 自分を置くべきだ と言っているように思えます。

The same word is used to describe Christians voluntarily submitting to governmental authorities (1 Peter 2:13 and younger people submitting to the wisdom of their elders (1 Peter 5:5)).

ペテロの手紙第一2:13でも クリスマンは 公の権力に自発的に従いなさい、同じく5:5では 若者は 年長者の知識に従いなさい ということを表すのに 同じ言葉が使われています。

Here in **v.23**, Paul gives the illustration of the church’s submission to Christ.

今日の箇所の23節で パウロは キリストに従う教会 という例を与えています。

So the willingness to relinquish our will in submission to another is key component of what it means to walk worthy in Harmony at home and at work.  
だから 他者に従うために 自分の意志を 自発的に手放す という気持ちは 家庭や職場で 調和してふさわしく歩むための 重要な要素なのです。

It does not imply inferiority or superiority, but rather, proper authority.  
それは 位が下だとか 上だとか いうものではありません。むしろ ふさわしい権威について 言っているのです。

Notice God’s Divine Outline here in...

そして ここに 神の素晴らしいアウトラインが示されています。

1 Corinthians 11:3 **“But I want you to know that the head of every man is Christ, the head of woman is man, and the head of Christ is God.”**

1コリント 11:3 しかし、あなたがたに 次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは 神です。

Now does this verse mean that Jesus is somehow inferior to God?  
ところで この節は キリストが 神よりも劣っている、という意味なのでしょうか？

No, we would be heretics if we believed that.

違いますよ。そんな風に信じるなら 異教徒になってしまいます。

Jesus said, "I and My Father are one." John 10:30

イエスは 次のように言いました。

ヨハネ 10:30 わたしと父とは一つです。」

Yet, He submitting Himself to God the Father.

それなのに イエスはご自身を 父なる神に捧げました。

In John 6:36 Jesus said, "For I have come down from heaven, not to do My own will, but the will of Him who sent Me."

次のようにイエスは言っています。

ヨハネ 6:36 しかし、あなたがたは わたしを見ながら信じようとしないと、わたしは あなたがたに言いました。

So again, the issue of submission isn't about superiority and inferiority, the issue is of divinely appointed authority in the Godhead itself, in the home as we see here, on the job sight as we will see next week, in government (Romans 13) and in the church.

もう一度言います。従うということは 優位だとか劣位だとかいうのではありません。神の性質において 神によって任命された権威の事です。今日学ぶ 家庭における権威、また来週学ぶ 職場における権威、政治体制における権威、そして 教会における権威です。

For God is not the author of confusion but of peace, as in all the churches of the saints." 1 Corinthians 14:33

1コリント 14:33 それは、神が 混乱の神ではなく、平和の神だからです。聖徒たちのすべての教会で行われているように、

God has arranged certain rules so that human relationships can work in order and in unity, without taking away the dignity of any individual person.

神が 規則をあらかじめ用意されていたので 人と人との関係は それぞれの地位を取り除かなくても秩序を保ち 一致して うまく働くことができるのです。

Now how this order and unity works in marriage is interesting because, as we read in v.31 ...man shall leave his father and mother and be joined to his wife, and the two shall become one flesh."

さて この秩序と一致が 結婚において どのように働くのかは 興味深いところです。なぜなら31節に 次のように書いてあるからです。

5:31 「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」

"The two shall become one" doesn't speak of inferiority or superiority, it speaks of unity and mutuality.

「ふたりは一心同体となる」 これは どちらが優れているとか 劣っているとかを言っていません。

これが言っているのは 結束と相互関係です。

We see a great example of this here in...

このことについて すばらしい見本が こちらに書かれています。

1 Corinthians 7:1-4 "Now concerning the things of which you wrote to me: It is good for a man not to touch a woman. 2 Nevertheless, because of sexual immorality, let each man have his own wife, and let each woman have her own husband. 3 Let the husband render to his wife the affection due her, and likewise also the wife to her husband. 4 The wife does not have authority

over her own body, but the husband does. And likewise the husband does not have authority over his own body, but the wife does.”

1 コリント 7:1-4 さて、あなたがたの手紙に書いてあったことについてですが、男が女に触れないのは 良いことです。2 しかし、不品行を避けるため、男は それぞれ自分の妻を持ち、女も それぞれ自分の夫を持ちなさい。3 夫は 自分の妻に対して義務を果たし、同様に妻も 自分の夫に対して義務を果たしなさい。4 妻は 自分のからだに関する権利を持ってはおらず、それは夫のもので。同様に夫も自分のからだについての権利を持ってはおらず、それは妻のもので。

Do you see the mutuality here? Both partners belong to each other.  
ここに相互関係があるのがわかりますか？ 夫と妻は お互いに属しあっているのです。

Submission, in the context of marriage, is the willingness to cooperate with and adapt to the needs of our spouse.  
結婚において 従うとは 協力しあいたい という気持ち、配偶者の必要に応じたい という気持ちです。

I have heard it said that frustration comes from unmet expectations.  
不満は 期待が満たされないところから生まれる と聞いたことがあります。

As I am sure you are aware, there are a lot **frustrated** marital relationships out there in the world, and sad to say, in the church today.  
あなたは気づいていると思いますが 世の中には 不満の多い婚姻関係が たくさんあります。そして 悲しいことに 教会においてもそうです。

There are some husbands who demand submission reminding their wives that they are the “head” of the home.  
自分が家庭の頭だと言って 妻に服従を要求する夫もいます。

Meanwhile the wives are thinking, “If you’re the head, then I’m the neck and I am going to turn you in the direction that I want to go!”  
一方で 妻たちは こう考えます。「あなたが頭なら 私は首よ。だから私が行きたい方へ あなたを向かせてやるわ！」

So there is this rivalry and competition and manipulation that sets in. Why? Because there is a lack of mutual submission “to one another in the fear of God.” (v.23).  
そして そこには 争い、競争、ごまかしの小細工が入り込むのです。それはなぜか？そこには キリストを恐れ尊んで、互いに従いあう事が 欠けているからです。

Notice...

Ephesians 5:25 Husbands, love your wives, just as Christ also loved the church and gave Himself for her,  
エペソ5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のために ご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

This is our role!  
これが私たちの役割です！

“What does that have to do with submission?”  
「25節が 服従とどんな関係があるの？」

It has everything to do with submission!  
25節には 服従に関係することが全てかかれていますよ！

Jesus said,  
イエスは言いました。

Luke 9:23b "If anyone desires to come after Me, let him deny himself, and take up his cross daily, and follow Me."  
ルカ 9:23b 「だれでも わたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々 自分の十字架を負い、そして わたしについて来なさい。

To deny ourselves, is to die to our own self will.  
自分を捨てるとは 自分自身の意志を捨てることです。

Jesus said,  
イエスは言いました。

Luke 11:2 "When you pray, say: Our Father in heaven, Hallowed be Your name. Your kingdom come. **Your will be done** On earth as it is in heaven."  
ルカ 11:2 そこで イエスは、彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。』

Then in the Garden of Gethsemane, the night Jesus was betrayed, He demonstrated that prayer by...  
saying, "Father, if it is Your will, take this cup away from Me; nevertheless **not My will, but Yours, be done.**" Luke 22:42  
そして イエスは 裏切りに合う夜 ゲッセマネの庭で その祈りを示されました。  
ルカ 22:42 「父よ。みこころならば、この杯を わたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

The next day Jesus literally picked up His cross and literally died to Himself for you and for me and all who believe in submission to the Father.  
その翌日 イエスは 文字通り十字架を背負い、あなたのため、私のため、信じる全ての者のために、父なる神に服従して 死なれました。

So to, as husbands, we are to love our wives as Christ loved the Church and gave Himself for her.  
だから 私たちは 夫として キリストが教会を愛し、教会のために自分自身を捧げられたように 妻を愛すべきです。

So again, I stress the point that every single person, whether it's a husband or a wife or (as we will see next week) a children or parent or servant or master has a certain role of submitting to one another **in the fear of God.**  
もう一度言うておきます。人は皆、だれでも、夫であれ、妻であれ、来週お話ししますが 子供であれ、親であれ、しもべであれ、主人であれ、キリストを恐れ尊んで 互いに従いあう役割を持っています。

1. **Submission is mutual** ("one to another" v.21)  
1. 服従とは 互いに従いあう事である。 (21節)

Notice 5:22-24 once again...  
もう一度 5:22-24を見ておきましょう。

Ephesians 5:22-24 Wives, submit to your own husbands, as to the Lord. 23 For the husband is head of the wife, as also Christ is head of the church; and He is the Savior of the body. 24 Therefore, just as the church is subject to Christ, so let the wives be to their own husbands in everything.

5:22妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。 5:23なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は 妻のかしらであるからです。 5:24教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

“in everything”?

「全ての事において」ですか？

Does everything mean everything?

全ての事とは 本当に全ての事 ということですか？

This brings us to point...

この質問が 次のポイントに導いてくれます。

## 2. “Submission is conditional”

2. 服従は 条件付きである。

Yes, I believe there are conditions attached to the idea of submission, especially in this context and elsewhere in the Bible.

そうです。特に 今日の聖書箇所や 聖書の他の箇所についても 服従という考えには 条件があると私は信じています。

Submitting to one another isn't just a blanket statement.

お互いに従いあう事は どんな時でもそうしなさい、という訳ではありません。

Notice the parameters found around and within the context of this statement, “in everything”.

この「すべての事において」という表現のまわりには 制限する表現があることに 気づいてください。

Like in v.21 where it says, “Submitting to one another (notice) in the fear reverence of God.”

例えば21節には 「キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。」とあります。

v.22, “Wives submit to your own husbands (notice) as to the Lord.”

22節では「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい」とあります。

v. 24, “As the church is subject to Christ so that their wives be to their husbands in everything.”

24節では「教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです」

Do you see the parameters set by the context?

「全ての事において」という表現のそばには このような制限を示す表現が あるのがわかりますか？

In other words, wives are to be submissive to their husbands in everything (consistent with the character of Christ, everything that is not not contrary or opposed to the expressed will of God clearly revealed in His Holy Word (the Bible).

言い換えるなら 妻は 神の御言葉 すなわち 聖書に明らかに示されている神の意志に反していないキリストの性質と一致している 全ての事において 夫に従うべきである、という事です。

If a husband was to tell his wife she could no longer pray to God, should she submit to that?

もし夫が妻に 神に祈りを捧げるな、と言うなら、妻はそれに従うべきでしょうか？

“N.O.” No!

もちろん 従うべきではありません！

If a husband was to tell his wife to get drunk with Him, should she submit to that?

もし夫が妻に 一緒に酒を飲んで酔っ払おう、と言ったら 妻は従うべきでしょうか？

No!  
いいえ!

If a husband was to tell his wife to to prostitute herself, to lie, to steal, to kill or whatever it might be that's obviously opposed to what God clearly calls sin, should she submit?"

もし夫が妻に 売春しろ、嘘をつけ、盗め、殺せ、など 神が 明らかに罪と呼ぶ行為をしろと言うなら、妻はそれに従うべきでしょうか?

No!  
いいえ!

Wives are not to submit to anything that would violate God's Holy Word.  
妻は 神の御言葉に反することには 何一つとして従うべきではありません。

Rather, they are to appeal to the higher authority...  
むしろ 彼女は より高い権威に 訴えるべきです。

Notice the chain of command once again, in **1Corinthians 11:3**  
第一コリント人への手紙11:3 に記された 指揮命令の順番を見ておきましょう。

*1 Corinthians 11:3 "But I want you to know that the head of every man is Christ, the head of woman is man, and the head of Christ is God.*  
1コリント 11:3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

God the Father, Jesus Christ, man, then woman.  
その順番は 父なる神、イエスキリスト、男性、女性 です。

If the husband has broken the chain by demanding ungodly submission, the wife must step out of submission to her husband and submit herself to the Lord.  
もし夫が 不道德な服従を求めて この指揮命令の順番を壊したなら、妻は夫への服従から離れて 主に従わなければなりません。

It's a principle found in Acts 5, when a law was passed in Jerusalem that strictly prohibited the poaching and teaching of the gospel in Jesus' name.  
これは 使徒の働き5章に記されている原理です。そのころ、

Jesus told His disciples to go and preach the gospel to all the world.  
イエスは 弟子たちに 行って、世界中に福音を宣べ伝えよ、と言いました。

So that's why Peter and the other apostles answered and said: **"We ought to obey God rather than men."** Acts 5:29

それゆえ、使徒の働き5:29で ペテロと他の使徒たちは 「人に従うより、神に従うべきです」と言ったのでした。

*Acts 5:29 "But Peter and the other apostles answered and said: "We ought to obey God rather than men."*

使徒の働き 5:29 ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。」

Wives are called to follow their husband's leadership with a submissive heart "as to the Lord", but not when it leads to sin.

妻は『主なる神に』従う心を持って 夫の指導に従うよう 召しをうけています。しかし、夫の指導が罪につながる時は 従ってはいけません。

Now what about the husbands in this area of "conditional" submission...  
それでは 夫たちには どのような「条件つき」服従があるのでしょうか?

For that we need to look at the example of Abraham and Sarah.

それを知るためには アブラハムとサラの例を見る必要があります。

At seventy-six years of age, having received a promise from the Lord that they would have a child, Sarah said, "Listen, Abraham, I'm not getting any younger. So let's help the Lord out a bit. Have relations with my handmaid, Hagar, and the child produced will count as ours."

サラは 76歳の時 子供を授かる約束を 神から受けましたが、彼女はアブラハムにこう言いました。

「アブラハム、聞いてください。私はもう若くありません。だから 神様を少し助けてあげましょう。私の女奴隷ハガルのところに入ってください。そして生まれた子は 私たちの子供ということにしましょう。」

Abraham said, "Ok!"  
アブラハムは承諾しました。

Genesis 16:2 says, "he heeded the voice" of his wife and sure enough, a child named Ishmael was born.

創世記16:2によると アブラハムは妻の言う事を聞き入れ、そして本当に イシュマエルという子供が生まれました。

*Genesis 16:2 "So Sarai said to Abram, "See now, the LORD has restrained me from bearing children. Please, go in to my maid; perhaps I shall obtain children by her." And Abram heeded the voice of Sarai."*

創世記 16:2 サライはアブラムに言った。「ご存じのように、【主】は私が子どもを産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。

Jumping ahead thirteen years, we find the promised child Isaac was birthed by Sara and was weaned.

そして13年後、神が約束された子供イサクが サラから生まれ

Ishmael began to mocking his little half brother Isaac so Sarah said to Abraham, "Hagar's son and my son cannot live in the same tent. Ishmael must go." (*paraphrased from Genesis 21:1*)

イシュマエルが 腹違いの弟をばかにしたり嘲笑いだしたので サラはアブラハムに言いました。「ハガルの息子と私の息子は 同じ屋根の下で暮らすことはできません。イシュマエルは出ていくべきです」

*Genesis 21:10 "Therefore she said to Abraham, "Cast out this bondwoman and her son; for the son of this bondwoman shall not be heir with my son, namely with Isaac."*

創世記 21:10 それでアブラハムに言った。「このはしためを、その子といっしょに追い出してください。このはしための子は、私の子イサクといっしょに跡取りになるべきではありません。」

But this time Abraham wasn't so quick to agree his wife, that advise very much displeased him (*Genesis 21:11*).

しかし、アブラハムは サラの言う事になかなか賛成しませんでした。そんなことはしたくなかったからです。

*Genesis 21:11 And the matter was very displeasing in Abraham's sight because of his son.*

創世記 21:11 このことは、自分の子に関する事なので、アブラハムは、非常に悩んだ。

Genesis 21:12 But God said to Abraham, "Do not let it be displeasing in your sight because of the lad or because of your bondwoman. Whatever Sarah has said to you, **listen to her voice**; for in Isaac your seed shall be called."  
創世記 21:12 すると、神はアブラハムに仰せられた。「その少年と、あなたのはしためのことで、悩んではならない。サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるからだ。

"listen to her voice"  
「言う通りに聞き入れなさい」

I found it interesting that when Sarah told Abraham to have relations with Hagar, he was quick to submitted to his wife.  
アブラハムは サラに ハガルと関係を持つと言われた時には すぐに従ったのは 興味深いところです。

But when Sarah told him to deal with Ishmael, he didn't want to do it!  
それなのに サラに イシュマエルを何とかして、と言われた時、アブラハムはそうしなかったんです！

Abraham submitted to his wife in something that was contrary to God's will, but ignored the voice of his wife when it was actually according to God's will.

アブラハムは 神の意志に反する事については 妻に従い、神の意志によることを妻が言った時には 無視しました。

What's the point? The point is the husband will be held responsible for the decisions he makes as the spiritual leader of the home.  
ここで大切なことはなんでしょうか？ それは 夫は 家庭の霊的指導者として物事を決定する責任がある、という事です。

There are times when I need to listen to my wife. There are times when I must choose to submit to what she's saying, realizing the Lord is speaking through her.

私も 妻の言う事に耳を傾ける必要があります。神が彼女を通して語っているのだとわかったら、妻の言う事に従うことを選ばなければなりません。

I want to hear the heart and mind of my wife when decisions need to be made, but I need to be careful to not do anything contrary to the will of God, because I am the one who will ultimately be held responsible."  
決定を下さなければいけない時、妻の気持ちを聞きいれてあげたいのですが、神の意志に反することをしないように気を付ける必要があるのです。なぜなら 私が 最終的に責任を取る立場にあるからです。

"Submission is conditional"  
「服従には 条件があります」

Once again, let's read...  
もう一度読んでおきましょう。

Ephesians 5:25 Husbands, love your wives, just as Christ also loved the church and gave Himself for her,  
夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

Why did Jesus give Himself for her (the church)?  
なぜイエスは 教会のために 自分自身を捧げたのでしょうか？

Ephesians 5:26-27 that He might **sanctify** and cleanse her with the washing of water by the word, 27 that He might present her to Himself a glorious church, not having spot or wrinkle or any such thing, but that she should be holy and without blemish.

5:26キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、5:27ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、きよく傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

Jesus knows His bride (the church) isn't perfect.

イエスは 自分の花嫁 つまり教会が 完全でないことを 知っています。

But what we see here is that He loves His church too much to leave her the way she is.

でも、イエスは 自分の教会をととても愛しているので そのままにしておくことができません。

He works on her and in her that she might be **sanctified**, made beautiful, washed by the water of His Word.

教会の罪が清められ、美しくなり、御言葉の水で洗われるように イエスは教会の上に中に 働いてくださいます。

This is the example we are to follow as husbands .

これは 私たち夫が従うべきお手本です。

Did you know the word husband comes from an ancient term that describes a tiller of the soil or a vine dresser?

英語の夫という言葉 husband は 土を耕す人とかブドウの栽培人を表す古い言葉から出ているんですよ。

We see the term used in the KJV when Jesus said, "I am the true vine, and my Father is the husbandman." John 15:1

キングジェイムスバージョンの聖書には ヨハネ15:1に次のような表現があります。

ヨハネ 15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫（英語でhusbandman）です。

In other words, the husband is to be the cultivator of the relationship and is to submit to that role "in fear of the LORD."

つまり、夫は関係を耕す人、キリストを恐れ尊んで その役目に従うべきなのです。

Wives are to also submit themselves to their husband's attempts to sanctify them "in the fear of the Lord".

妻も キリストを恐れ尊んで 夫がしようとするのが聖められるよう 夫に従うべきです。

Wives are to be enablers, allowing their Husbands to grow as leaders rather than hindering them.

妻は 夫がリーダーとして成長するのを 邪魔するのではなく 支える人であるべきです。

Husbands need to be encouraged, cheered on and given the grace to make mistakes and learn from those mistakes.

夫は 失敗した時には 失敗から学ぶように 励まし、応援、思いやりが必要です。

Notice next how the husband is to practically apply Jesus' example of sanctification to his own wife here in...

次の箇所には イエスが示された罪の清めのお手本を 夫は 実際どのように 妻に適用するべきなのか が書かれています。

Ephesians 5:28-33 So husbands ought to love their own wives as their own bodies; he who loves his wife loves himself. 29 For no one ever hated his own flesh, but nourishes and cherishes it, just as the Lord does the church. 30 For we are members of His body, of His flesh and of His bones. 31 "For this

reason a man shall leave his father and mother and be joined to his wife, and the two shall become one flesh.” 32 This is a great mystery, but I speak concerning Christ and the church. 33 Nevertheless let each one of you in particular so love his own wife as himself, and let the wife see that she respects her husband. 5:28 そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。 5:29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえて、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。 5:30 私たちはキリストのからだの部分だからです。 5:31 「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」 5:32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。 5:33 それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。

### 3. Submission is Respectful.

#### 3. 服従は 敬意を表します

Part of submission is to respect the position, not just in marriage, but in every aspect of life. We may not always respect the person in the position, but we are to respect the position (which we will talk about more next week). 服従には 結婚生活においてのみではなく、人生のあらゆる状況においても その地位を敬うという意味もあります。その地位のその人を いつも尊敬しているわけではないかもしれませんが、その地位については 敬意を表すべきです。(このことについては来週詳しくお話します。)

According to Paul starting here in v.28, the best thing a husband can do as the one appointed to be the cultivator of the relationship is to love his wife as himself.

この28節を書いているパウロによると、夫が 夫婦関係を耕す人として任命された者としてできる一番大切なことは 自分を愛するように 自分の妻を愛することです。

For “the two shall become one flesh”.

なぜなら「ふたりは一心同体となる」からです。

Jesus specifically prayed, in John 17, that we, future Christians, would be one just as He was one with our Heavenly Father.

イエスは ヨハネによる福音書17章で イエスが父なる神と一つであるように 私たちのような 未来のクリスチャンも一つになるように、と はっきりと祈りました。

Why did He pray this? Because He knew we would struggle being one! He knew how difficult it would be for us. If He didn't know this, He wouldn't have prayed it.

なぜイエスは こんな風に祈ったのでしょうか？ それは 私たちは一つになるのに悪戦苦闘することを知っていたからです。もしそれをご存じでなかったなら こんな祈りをするはずありません。

Disputes will happen (that is a given).

議論や口論は起こるものです。(それは当たり前のことなんです。)

But when they happen, how are we to deal with them?

でも、議論、口論が起こった時、私たちはどう対処するか？

The negative approach of “don't do to others what we don't want done to us” is a common teaching.

消極的な対処法は よく言われる「自分にしてほしくないことは 他人にもするな」というものです。

But Jesus took it a step further. In the positive sense Jesus said...

しかし、イエスは さらに一歩進んで 積極的な対処法を次のように示しました。

Matthew 7:12 "Therefore, whatever you want men to do to you, do also to them, for this is the Law and the Prophets."

マタイ 7:12 それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。

This is what we call the Golden Rule and it leads us in positive actions rather than just refraining from negative actions.

これが いわゆる黄金律というもので 私たちに 消極的な行動をやめ、積極的行動へと 導いてくれます。

And it is to our own benefit as husbands to love and respect our wives as ourselves because as it has been said, "a happy wife, is a happy life!"  
そして 夫が 自分を愛するように妻を愛し、妻を敬うことは 私たち夫のためになるのです。なぜなら、『奥さんが幸せだというのは 人生幸せだ』とよく言われるでしょう？

In 1Peter 3 we are given more specific details of how we as husbands are to love and respect our wives.

第一ペテロ3節では 私たち夫は 夫として どのように妻を愛し敬うべきか について教えられます。

Notice...

1Peter 3:7 Husbands, likewise, dwell with them with understanding, giving honor to the wife, as to the weaker vessel, and as being heirs together of the grace of life, that your prayers may not be hindered.

1ペテロ 3:7 同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

We are exhorted to "dwell with (our wives) with understanding".

「妻という人を理解して 一緒に住みなさい」と 私たちはよく言われます。

Although I think it is pretty much impossible for a man to "fully" understand a woman, it is really important that we (at least) try, for several reasons.

一人の女性のことを完璧に理解するのは 男性にとってほとんど不可能だと 私は思うのですが、いくつかの理由から 少なくとも 理解しようとするのは とても大切だと思います。

But Peter lists just one, "that your prayers may not be hindered."

しかしペテロは たった一つの理由を掲げました。「それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。」

I'd like to take a moment to share with you how I had to learn this lesson "the hard way", if you don't mind.

私にとって この教えを学ぶのが どれほど大変だったか 少しお話しさせてください。

Back when Amy and I were engaged, we planned to move to Japan together as missionaries after we were married.

エイミーと私が婚約した頃の事です。私たちは 結婚したら 宣教師として日本と一緒に移住することを計画していました。

We planned on settling in Tokyo for "a season" (around six months) to adjust to marriage and life in Japan before heading to Osaka to church plant and that is what we did.

私たちはまず 東京で1シーズン(約半年間) 住む予定を立てました。結婚生活と日本での生活に慣れるためです。

そして その後 大阪で教会を立てようと思っていました。そして その通りになりました。

After a few months in Tokyo, we began to talk about our move to Osaka.  
私たちは 東京で数カ月過ごしてから 大阪へ移動することについて話始めました。

Well, turned out that Amy's idea of "a season" wasn't six months (as was mine). But more like a year later, in fact she honestly didn't even want to go to Osaka!

その話合の中で 私は 1シーズンは半年と思っていたのですが エイミーは1シーズンは約1年と考  
えていたことがわかりました。でも ほぼ一年経ってみると 実はエイミーは大阪に行きたくない、と  
いうのが本音だったのです。

I couldn't believe it! I didn't know what to do? I didn't want to play the  
"wives submit" card and attempt to drag Amy, kicking and screaming, against  
her will to Osaka.

私は信じられませんでした! どうしたらいいのかわからなかった! 「妻は夫に従え」というカードを突  
き付けて 大阪に行きたくないエイミーを蹴飛ばしたり 大声をあげて 引っ張っていくようなことは  
したくなかったのです。

No way! That would have been a horrible start to our marriage!  
当たりまえです! それこそ 結婚が最初からとんでもないことになってしまいます!

So I began to pray, "Oh, Lord please change Amy's heart and help her submit".  
だから私は祈りました。「神様、どうかエイミーの気持ちを変えて 従ってくれるよう助けてくださ  
い。」

Now, some of you remember, I used to have a real long beard, before Amy cut  
it off during our wedding ceremony.

さて、覚えている方もいるかもしれませんが、私は以前 長いあごひげをはやしていました。エイミー  
が結婚式の時に切ってしまったんです。

Well, after a few months in Tokyo, I was excited to see it starting to make a  
come back!

そして 東京に住みだして数カ月後 ヒゲが伸び始めてきたのを見て、私はとっても嬉しかったんです。

Why? Well because, believe it or not, it had proven to be (at the time) an  
effective evangelistic tool.

なぜって? だって、信じてくれるかどうかはわかりませんが、当時 顎鬚は伝道するのに 効果的な道  
具だったからです。

In America, I would go to the skate parks and kids would come up to me think-  
ing I was a drug dealer but instead of giving them drugs, I gave them Jesus!  
アメリカで スケート場に行くと 子供たちが 私をドラッグの売人だと思って寄って来るんです。だ  
けど私は ドラッグの代わりに イエスのことを教えました!

In Mexico, the Philippines, Cambodia, and especially here in Japan people  
would literally come up to me, wanting to feel my beard and take pictures  
with me.

メキシコ、フィリピン、カンボジア、そして特に日本では 私のヒゲを触りたいといって、本当に近づい  
てきて、私と写真を撮ったりしました。

Of course, at that point, the door was wide open for me to "try" to make con-  
versation, hand them a gospel tract, invite them to an outreach and/or  
church.

もちろん その時、私には「彼らと話をして 福音の小冊子を渡し、伝道イベントや教会へ招待する」  
チャンスの扉が大きく開かれていたわけです。

So, I figured, if it's not broke why fix it (or rather, it was time to fix  
it! By letting it grow back)!

だから私はこう思いました。役にたっているのに なぜ切ってしまう必要があるの?

However, Amy wouldn't have it!

でも、エイミーは やはり顎鬚が好きではありません。

Before long (no pun intended), she gave me the hand sign (scissors) and said, "you need to trim that thing down! It was getting too long!"

しばらくして エイミーが はさみでチョキチョキするジェスチャーをしながらいいました。「それ、そろそろ刈らないといけないんじゃない？ 長すぎよ！」

Of course I protested and reminded her of how effective the beard had been. もちろん 私は抗議して この顎鬚が伝道するのにどれほど役に立ったかを訴えました。

But she still wouldn't have it! She told me that I shouldn't put God in a box. That He didn't need my beard in order to evangelize.

でも、彼女はやはり気に入りません。エイミーはこう言いました。「神様を箱に入れてしまいこんではだめよ。神様が伝道するのに あなたの顎鬚が必要ななんてことはないんだから」

Of course that was true, but I wasn't convinced that God didn't want me to grow it back.

もちろん その通りです。でも私には 神様が私に顎鬚を伸ばしてほしいと思っている 確信が無かったのです。

So I started to pray again, "Lord, please change her heart and help her submit to my spiritual leadership!"

そこで私はもう一度祈りました。「神様、エイミーの気持ちを変えて 私の霊的指導に従えるよう助けてください。」

I prayed and vented to God throughout the night and into the early morning hours until I was finally hushed... by a still small voice.

その夜から朝にかけて、私は神に祈り、不満をぶつけ続けました。そして とうとう とても穏やかな小さな声によって 私は黙らされたのです。

Do you know what I am talking about? That voice, that is unmistakably not from you!

私の言っている意味がわかりますか？ その声は間違いなく あなたの声では

"Joseph... would you ever submit to Me, If I hadn't first died for you?"

「ジョセフ、もし私がお前のために先に死ななかつたら、お前は私に従っていただけるか？」

"No, Lord! I would have never given my life to you, if you hadn't first given your life for me. I love you, because You first loved me!"

「いいえ、神様！もしあなたが先に あなたの命を 私のために与えてくれなかつたら、私はあなたに 自分の人生を捧げることはなかつたでしょう！」

"Well, how can you ever expect Amy to submit to you, if you don't first die for her?"

「おまえがエイミーのために先に死んでいないのに、おまえはどうして 彼女がお前に従うことを期待するのか？」

Oh man! Busted, couldn't be trusted!

ああ、そうか！お見通しだ。私が信頼されるはずがない！

I was asking God to change Amy's heart so that she would be submissive to me, but God wanted to change my heart so that I would be submissive to Him!

私は エイミーが私に従ってくれるように エイミーの気持ちを変えてください、と神に祈っていました。しかし、神は 私が神に従うように 私の心を変えたかったのです！

Ephesians 5:25 Husbands, love your wives, just as Christ also loved the church and gave Himself for her."

エペソ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

Paul isn't saying, "husbands, be kind to your wife." Or "husbands, be nice to your wife." Although this would be a huge improvement for many marriages!パウロが言っているのは 「夫よ、妻に優しくしなさい、親切にしなさい」ではありません。もちろんそうすると 多くの結婚生活には 大きな成長がみられるでしょうが。

He is saying, "Husbands, love your wives, just as Christ also loved the church and gave Himself for her."

パウロが言っているのは 「キリストが教会を愛し、教会のために命を捧げてくださったように、夫よ、自分の妻を愛しなさい」という事なのです。

Notice for example...

その見本は次にあります。

Romans 5:8 "But God demonstrates His own love toward us, in that while we were still sinners (unconditional), Christ died for us (sacrificial)."

ローマ 5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき（それにもかかわらず無条件に）、キリストが私たちのために（犠牲的に）死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

You know, when we start to point our finger at someone, we need to consider how many more are pointing back at us! As was the case with me, that early Tokyo morning.

私たちが誰かを指さす時、それ以上の指が 自分を指していることを忘れてはいけません。あの東京での朝、私がそうだったように。

I wanted to be the spiritual leader, but had failed submit to the Lord's lead and He was calling me out on it!

私は霊的な指導者になりたかったのに、主なる神の導きに従えていなかったので 神はその事で 私を呼び出されたのです！

As we read earlier in Luke 9:23b Jesus said, "If anyone desires to come after Me, let him deny himself, and take up his cross daily, and follow Me."

ルカ9:23にあったように イエスは次のように言いました。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

So, this is exactly what I did, I denied myself, went into the restroom and shaved everything off!

これは まさに私がしたことです。自分の気持ちを抑えて 洗面所に行き きれいさっぱり剃ってしまいました！

Now again, I realize how petty this all sounds (so much drama over facial hair), Yes! I know!

もう一度いいますが 顔に生える毛のことなど ささいな事に思われることはわかっています！ええ、わかっていますとも！

However, I also "know that all things (including the drama over my dumb beard) work together for good to those who love God, to those who are the called according to His purpose." Romans 8:28

でも、私はまた、ローマ 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

How do I know? Because that morning, when Amy woke up and saw my face, she couldn't believe her eyes 😲!

どうやって知ったのかって？それは あの朝、エイミーが起きてきて私の顔を見た時、彼女は自分の目が信じられなかったのです！

It made such an impact upon her, that unbeknown to me "she" started to pray that the Lord would change her heart about going to Osaka!  
そのことは 彼女にそれほど大きな衝撃を与えました。その後、彼女は 私に知られないところで 大阪に行きたくないという彼女の気持ちを変えてください、と神に祈り始めました。

About a month later Amy said to me, "I think I am ready now. I'd be happy to go to Osaka!"

一カ月ほどして エイミーは私に言いました。「準備ができました。喜んで大阪に行きます！」

I couldn't believe it! My prayer was answered! PTL!  
私は信じられませんでした。私の祈りがかなえられたのです！ 神様は素晴らしい！

1Peter 3:7 Husbands, likewise dwell with them with understanding, giving honor to the wife, as to the weaker vessel, and as being heirs together of the grace of life, that your prayers may not be hindered.

1ペテロ 3:7 同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

Now, I realize that every marriage is like a finger print, they are all totally different and the methods and advice used to help promote healthy, happy marriages will vary. But the Biblical principles will always remain the same and will always apply.

私は思うのですが 全ての結婚は指紋のようなもので、一つ一つが全く違っています。だから 健康的な、幸せな結婚にする方法やアドバイスは多岐にわたるでしょう。でも、聖書的原理はいつも同じでいつも用いられます。

Starting at v.21 we read "**submitting to one another in the fear of God.**"  
今日は21節から キリストを恐れ尊んで、互いに従うことを学びました。

And ending in v.33 we read, the Husband is to "**so love his own wife as himself, and let the wife see that she respects her husband.**"

そして最後の33節で おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。ということを読みました。

Paul makes it very simple, husbands love "mutual submission (in the fear of the Lord) with love and respect."

パウロはそれをとてもシンプルに書いています。。夫は キリストを恐れ尊び、愛と敬意を持ってお互いに従いなさい。

I didn't say this is easy to do, but it is simple and easy to understand.  
これを実行するのが簡単だとは 私は言いません。でも理解するためには シンプルで簡単です。

Walking in harmony in our marriages is based upon these simple principles and if a married couple decided to listen to God, the author of marriage and focus their efforts on applying these simple instructions in the fear of God and the power of His Spirit, then there would be no need for all the articles, books, seminars, and videos! You can just junk it all!

結婚生活において 調和して歩むとは これらのシンプルな原理に基づいています。そしてもし 夫婦が 神、すなわち結婚の創造者の御言葉に従うと決め、キリストと聖霊の力を尊んで これらのシンプルな教えを用いて 努力するなら いろいろな記事、本、セミナーやビデオなど 不要になるでしょう。そんなものは全部ガラクタとして捨ててしまえるのです！

Do you remember the glove illustration I mentioned earlier?

さきほどお話しした 手袋の話を覚えていますか？

Perhaps you can you hear the Holy Spirit saying, "let Me fill you. Let Me be the hand that reaches into you, and fills you, leads you, and guides you in all you do."

たぶんあなたは 聖霊がこう言っているのが聞こえるでしょう。「私にあなたを満たさせてください。あなたがすること全てにおいて 私をあなたに届く手にして、あなたを満たさせ、導かせ、案内させてください。」

Will you submit to the Holy Spirit's touch upon your life?

あなたは 聖霊があなたの人生に触れることに 従いますか？

Or will keep trying to figure it out all on your own?

それとも 全ての答を自分で見つけようと し続けますか？

Amen?

Amen!